科目名	人間工学特論Ⅱ			担当教員名	岡　耕平
該当DP	2	単位数	1単位	選択	配当年次	1年次・第2セメスター（後半）
曜日・時限	金曜日・6限目			教室	オンライン授業

授業概要

「人間にタスクを合わせる」という人間工学の考え方及び原理原則について講義する。本講義では受講者の身の回りにあるタスクや環境を題材に取り上げ、プロジェクトベースドラーニングの手法を取り入れながら、グループディスカッションやプレゼンテーションなど教員と学生あるいは学生同士の双方向の取り組みを通じて、人間工学の考え方及び原理原則やその応用について講義する。

到達目標

1）職場の安全と健康に関わる作業環境や作業条件および満足できる職務のあり方を理解し、説明できる。
2）また、安全管理や心身の健康障害の予防等の職場のマネジメントを実践できる応用知識を身につけることができる。

回	日程	見出し	内容	実践的な授業方法
1	11/15	作業を分析する（1）	受講者が日常的に携わる作業の課題を分析するための方法論や原理原則について、講師が概説した上で全体で討議する。[グループディスカッション]	○
2	12/6	作業を分析する（2）	前回の講義を踏まえ、受講者が自らの身近な作業を分析した結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]	○
3	12/13	作業環境を分析する（1）	受講者が日常的に携わる作業環境とその負荷を分析するための方法論や原理原則について、講師が概説した上で全体で討議する。[グループディスカッション]	○
4	12/20	作業環境を分析する（2）	前回の講義を踏まえ、受講者が自らの身近な作業環境及び負荷を分析した結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]	○
5	1/10	コミュニケーションを分析する（1）	受講者が日常的に携わっているコミュニケーションにおける課題を分析するための方法論や原理原則について、講師が概説した上で全体で討議する。[グループディスカッション]	○
6	1/17	コミュニケーションを分析する（2）	前回の講義を踏まえ、受講者が日常的に携わっているコミュニケーションにおける課題の分析結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]	○
7	1/24	エラーを抽象化する（1）	受講者が実際に経験した事故を例にとり、その背景にある作業・作業環境・コミュニケーションの問題について整理した上で、エラーの抽象化について討議する。[グループディスカッション]	○
8	1/31	エラーを抽象化する（2）	前回の講義を踏まえ、受講者が整理し抽象化したエラーの分析結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]	○

項目	内容
キーワード	作業研究、課題分析、安全管理、コミュニケーション
履修条件	「人間工学特論Ⅰ」を履修済あるいは聴講済のこと
教材等：教科書（要事前購入）	教科書は特に指定しない。講義で使用する資料は適宜配付する。
教材等：参考書（任意購入）	『オキュペーショナルエルゴノミックス』エティエンヌ・グランジャン(著) ユニオンプレス 2002年 『組織事故とレジリエンス』ジェームズ リーズン(著) 日科技連出版社 2010年
成績評価方法（%）［評価のポイント］	①講義内で指示する課題への回答とディスカッション（40%）、②レポート（60%） ［①ディスカッションへの積極性・貢献性、②科学的研究方法及び人間工学の原理原則の理解の程度を評価する。］
授業時間外で必要な学修	講義で扱った内容に関することの復習および関連する知識の自主的な学習。また、講義内で指定する講義に用いるための素材となるものの収集。
学生へのメッセージ	人間工学の知識はみなさんの生活及び就労環境の改善に大変役に立つものです。この知識を身につけるためには、授業だけではなく自主学習も必要です。積極的な発言・質問を望みます。

※　授業の日程については変更する場合があります。